

東証プライム市場
名証プレミアム市場

証券コード 7241

FUTABA

個人投資家様向けWebセミナー フタバ産業株式会社

2026年2月4日

Point 1

フタバ産業は創業80年の自動車部品グローバルサプライヤー

Point 2

既存事業の収益向上と、新規事業(インド事業、農業事業等)の創出で持続的成長を目指す

Point 3

累進配当で株主の皆様へ安定的かつ継続的に利益を還元しつつ、ROE10%・営業利益率5%を目指すことにより、更なる企業価値向上を目指す

アジェンダ

1.会社概要

2.成長戦略

3.稼ぐ力

4.サステナビリティ

5.財務戦略

アジェンダ

1. 会社概要

2. 成長戦略

3. 稼ぐ力

4. サステナビリティ

5. 財務戦略

一目でわかるフタバ産業

創業
80年

売上高
7,071億円
(2025年3月末時点)

顧客別売上比率
トヨタG **8**割

排気系部品
生産シェア
世界 **No.3**※

グローバル拠点数
20以上

グローバル従業員数
約 **1** 万人

配当利回り
3.9%
(2026年2月3日時点)

株価
1,035円
(2026年2月3日時点)

PBR
0.7倍
(2026年2月3日時点)

歴史・沿革

社会課題

1945—

戦後の生活必需物資の欠乏

1960—

モータリゼーションによる公害問題

1980—

省資源・省エネルギーへの対応

2000—

ハイブリット車による燃費競争

2010—

気候変動・食糧問題の深刻化

2020—

脱炭素社会実現への取組と環境規制の加速

売上高
(億円)

8,000

6,000

4,000

2,000

0

製品・技術を通じた解決策

1945: 漁網編機



1959: マフラー事業に参入



1947: パイプ製応接セット



1989: ステンレス製エキゾーストマニホールドを開発・生産



2001: 980MPa冷間超ハイテン材加工のセンターピラーを開発・生産



2015: ホットスタンプ加工のフロントピラーを開発・生産



2022: センターフロアパンサブアセンブリを生産



2023: 1470MPa冷間超ハイテン材加工のフロントピラーを開発・生産



1970

1980

1990

2000

2010

2020

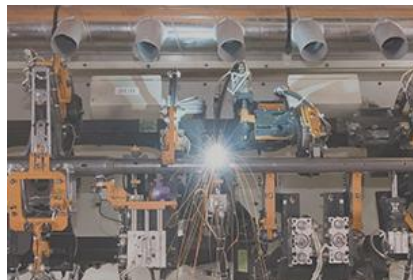
成型・接合技術を生かした、時代に合わせた製品開発

フタバ産業の強み

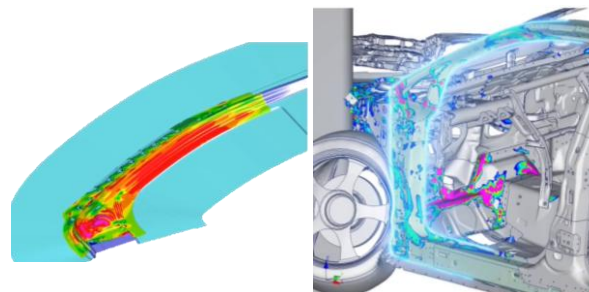
8つのコア技術



①成型 プレス加工



②接合 レーザ/アーク/
スポット溶接



③解析 成型/
衝突解析



④消音 排気管



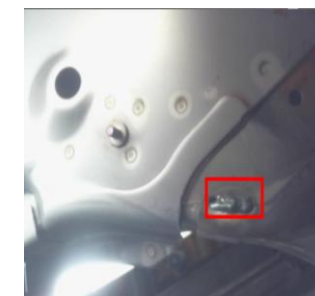
⑤浄化 排気管



⑥吸着 キャニスター



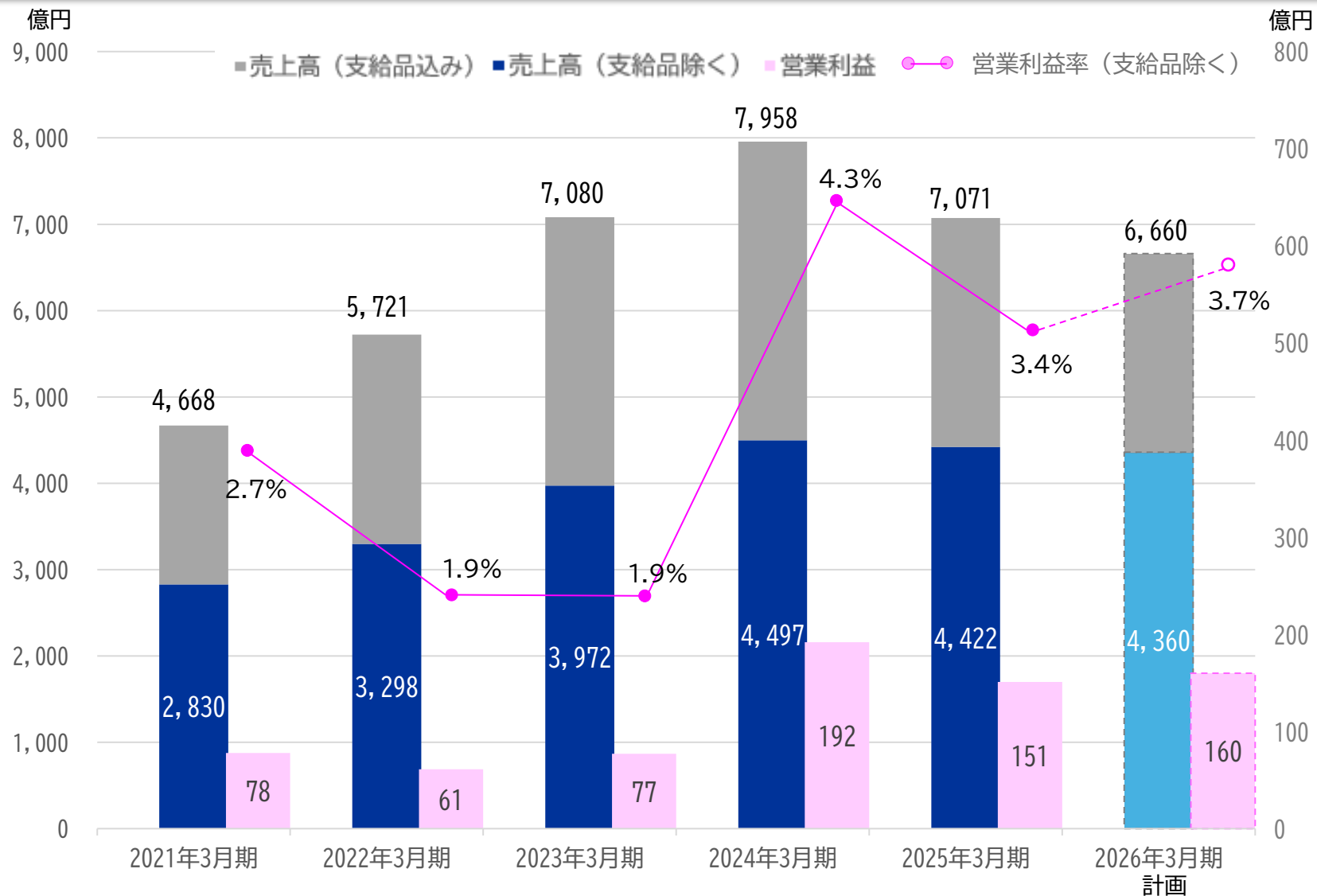
⑦熱マネ 排気熱回収器



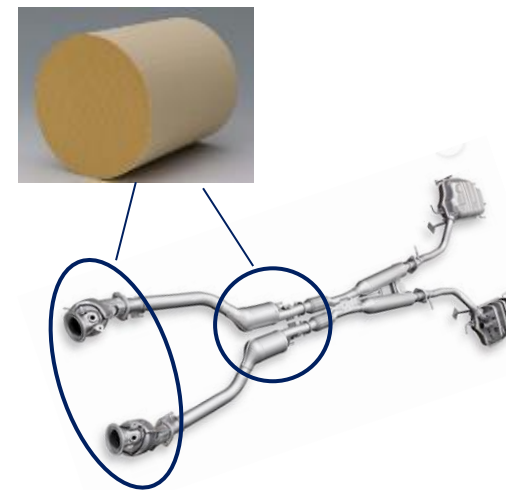
⑧画像認識 画像検査

80年以上のあゆみの中で培ったコア技術は今なお深化

売上高・営業利益推移



※支給品
：キャタリックコンバーター(触媒)



売上・営業利益ともに堅調に推移し、収益力が向上

◆自動車等車両部品

ボデー/内装部品 2,470億円



ボデー骨格部品

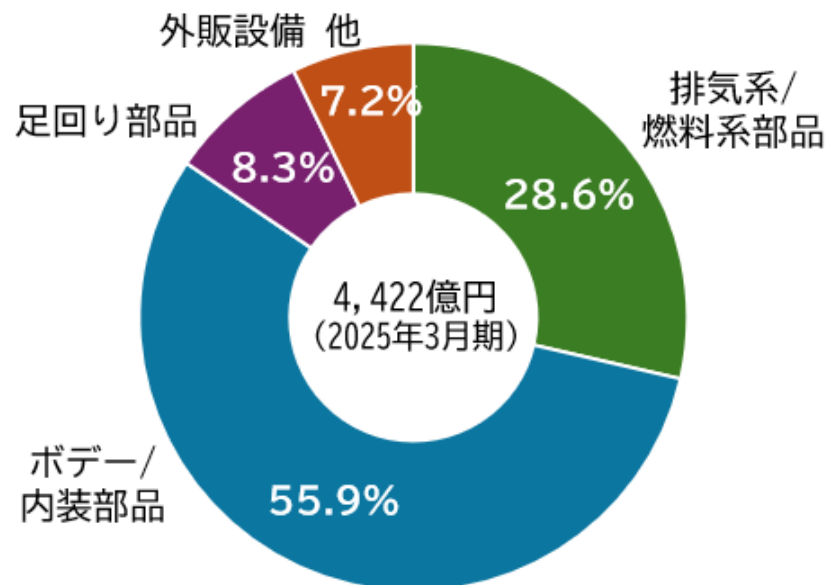


センターフロアパン
サブアッセンブリ



インパネ
リインフォースメント

製品別売上高比率
(支給品除く)



足回り部品 365億円



トレーリング
アーム

エンジン
アンダーカバー



排気系/燃料系部品 1,264億円



排気系システム

エキゾースト
マニホールド



キャニスター

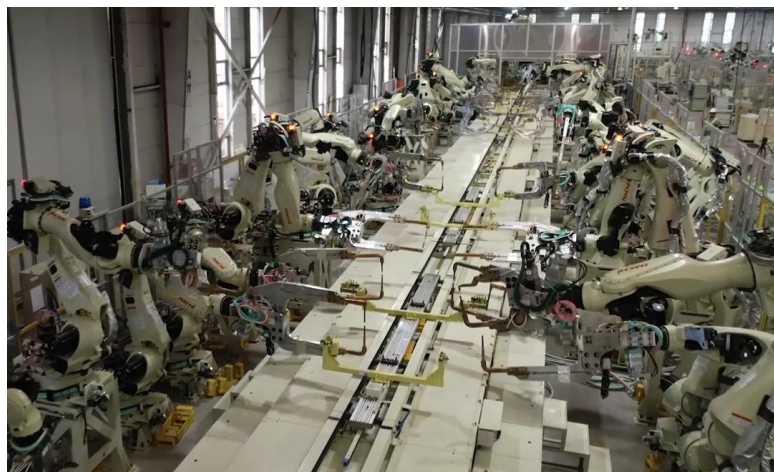
フューエル
インレットパイプ



◆外販設備事業、農業事業、その他 323億円

外販設備事業

国内外の自動車完成工場に向けて組立溶接ライン(設備)を製作しています。営業活動から構想検討、設計製作、トライ調整まで一貫で設備づくりを行っています。



▲ 組立溶接設備

農業事業

自動車部品開発で培ったコア技術を応用し、農業ハウス栽培用CO2貯留・供給装置「agleaf®(アグリーフ)」を製造・販売しています。

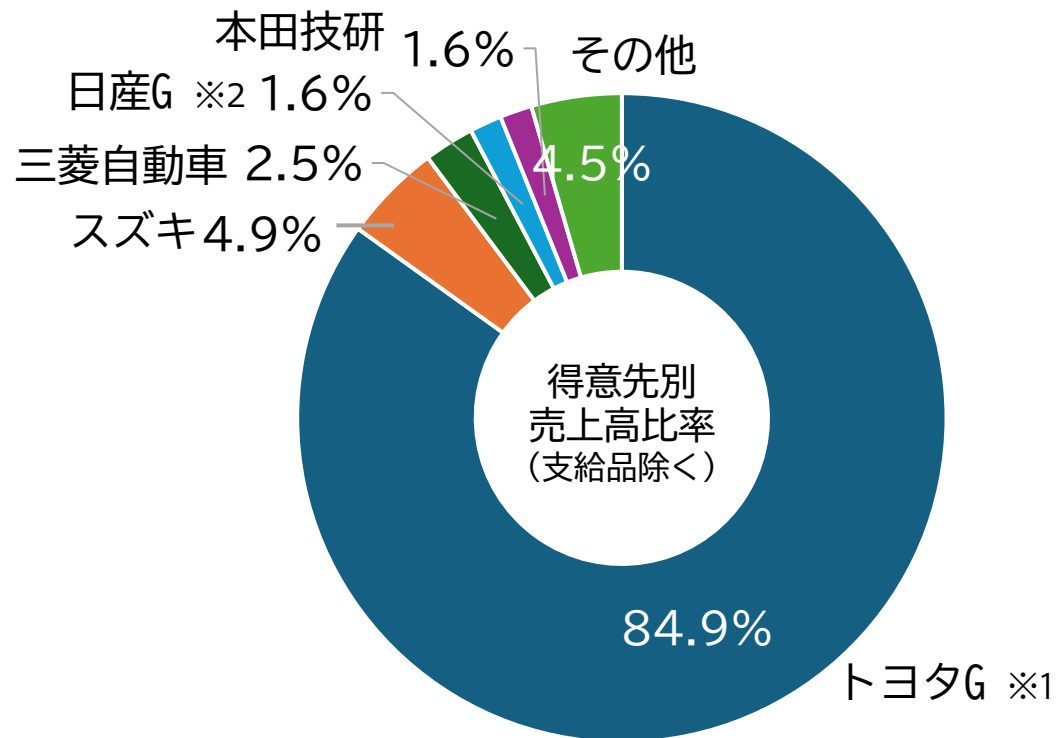


▲ 農業ハウス栽培用CO2貯留・供給装置「agleaf®」

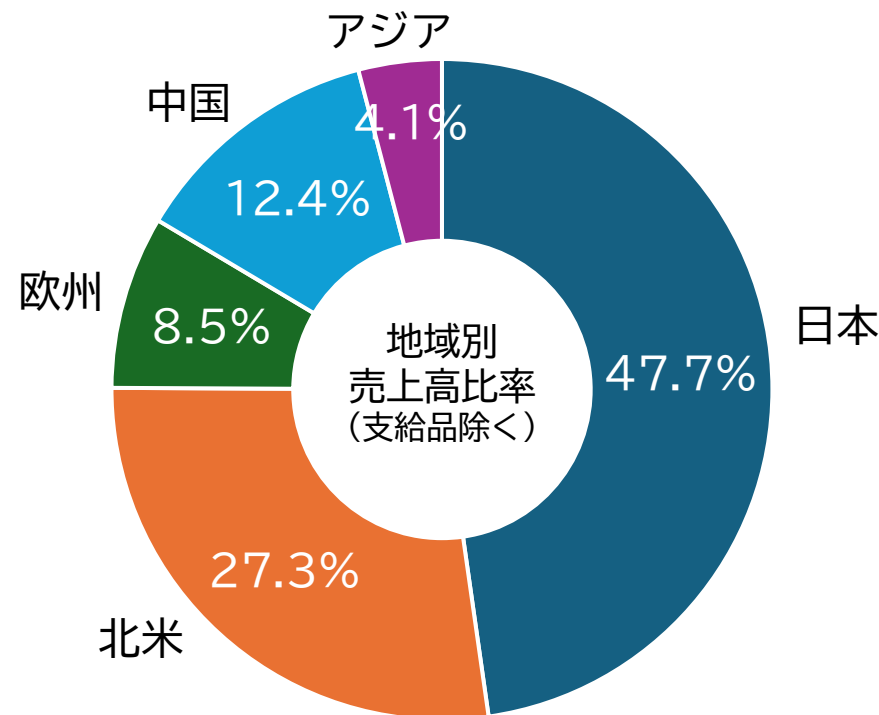
成型・接合技術は自動車部品→外販設備→農業へと事業拡大

売上高(得意先別、地域別)

得意先別シェア
(2025年3月期)



地域別シェア
(2025年3月期)



※1 トヨタGにはダイハツ、日野自動車を含む
※2 日産Gには日産車体を含む

トヨタとの強固な取引関係を軸に、安定した収益基盤を構築
国内を基盤に、北米市場でも着実に展開

生産拠点(国内拠点)

国内拠点

国内生産拠点

●:本社 ●:工場



国内子会社・関連会社

■:連結子会社 ▲:関連会社



グローバルネットワークを生かし、国内外のお客様に素早く対応

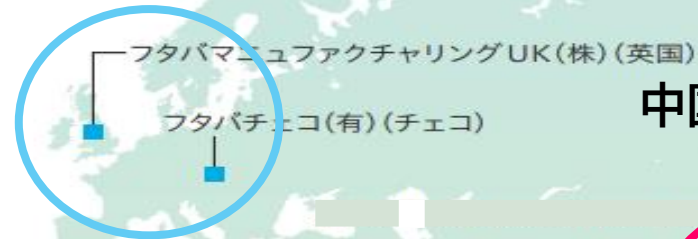
生産拠点(海外拠点)

世界に20以上の拠点を置き、グローバルに事業展開

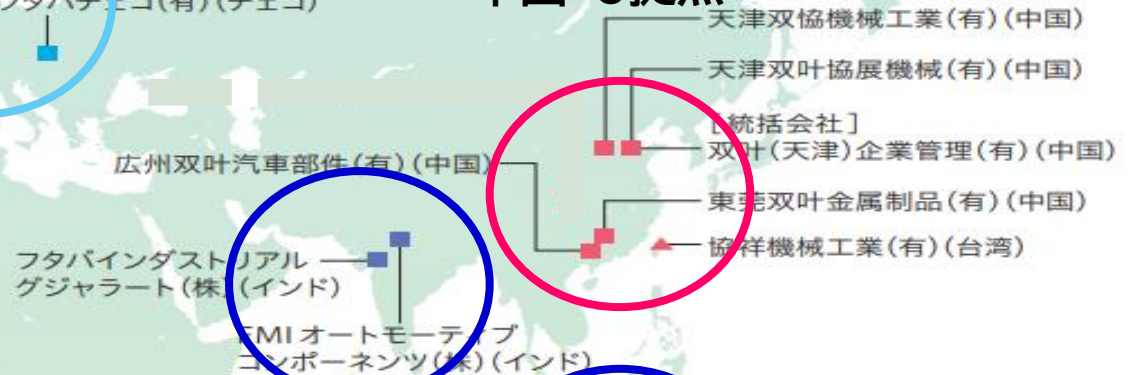
海外拠点

■: 連結子会社 ▲: 関連会社

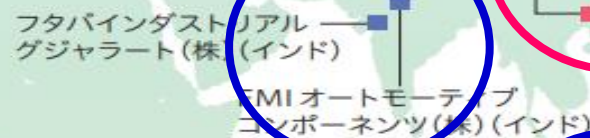
欧州: 2拠点



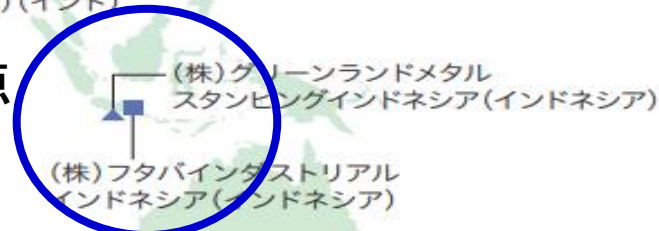
中国: 6拠点



インド: 2拠点



インドネシア: 2拠点



北米: 5拠点



アジェンダ

1. 会社概要

2. 成長戦略

3. 稼ぐ力

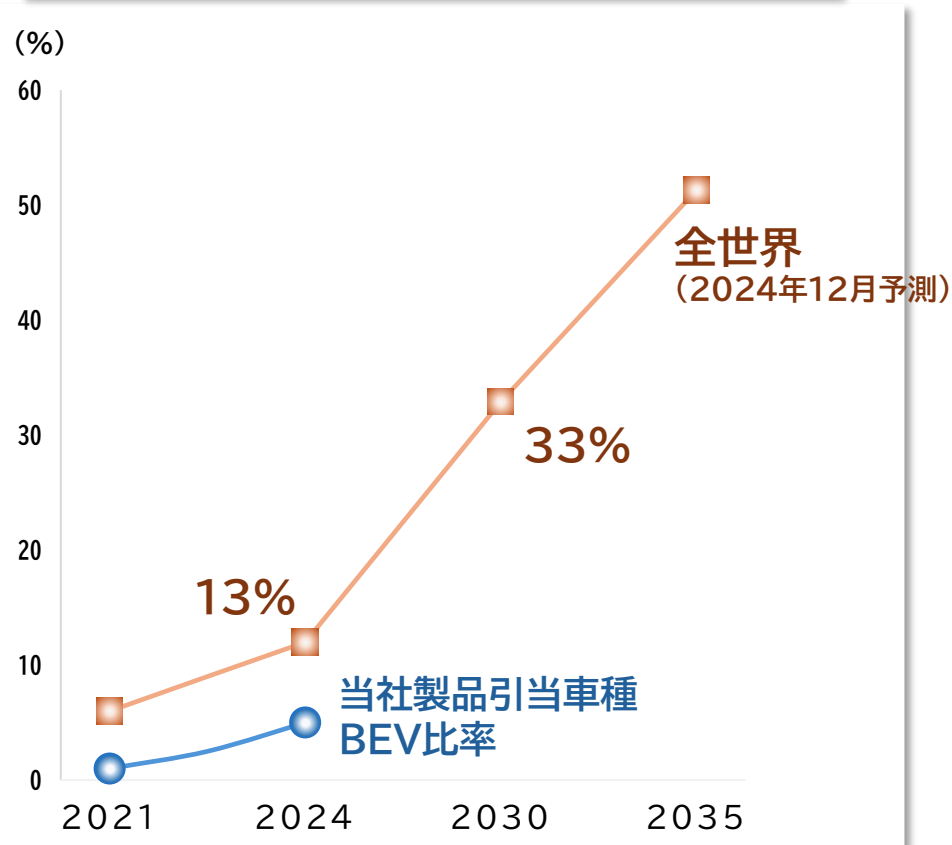
4. サステナビリティ

5. 財務戦略

世界新車販売台数BEV比率予測

※PHEVは除く

直近外部データに基づき売上影響を予測

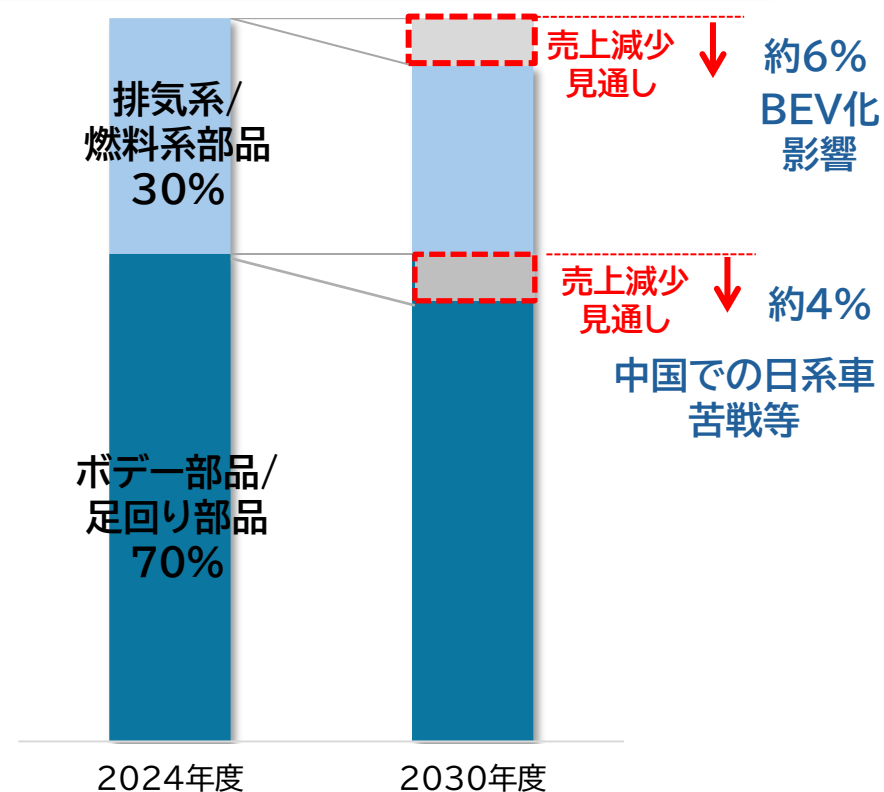


※出典:MarkLines作成(2024年12月時点の予測データ)よりフタバ産業が作成

フタバ連結の売上影響予測

※自動車関連部品・支給品除く

BEV普及に加え中国等の減少により
約10%の影響あり



排気・燃料系が売上の3割を占める中、BEV化は事業成長への逆風となり得る

目指す姿

2030年のグローバルでの安定成長に向けて中期経営計画を策定

中期経営計画2025-2027の位置づけ



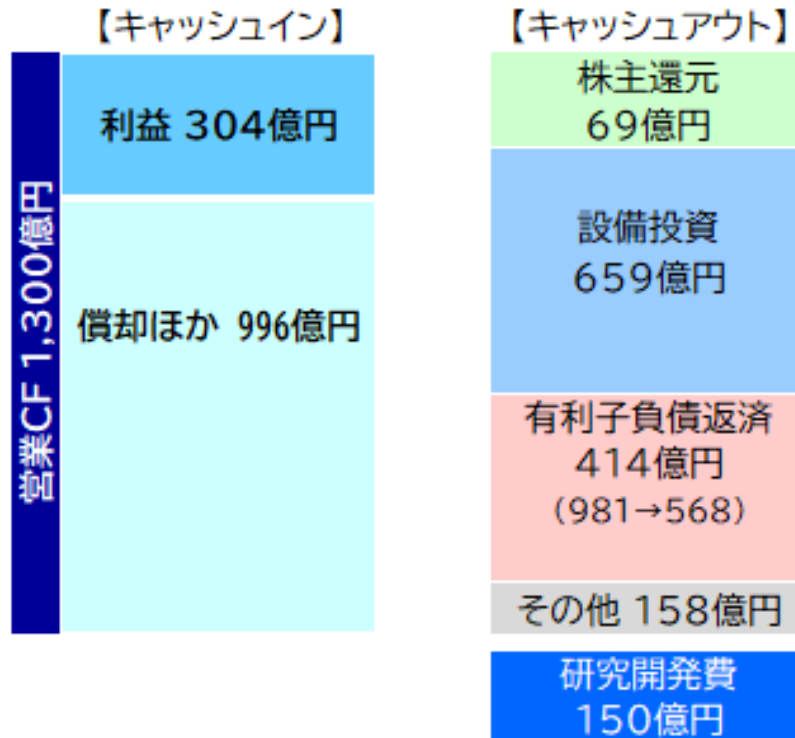
既存事業の成長・新規事業の事業化・経営基盤の強化に取り組む

キャッシュアロケーション

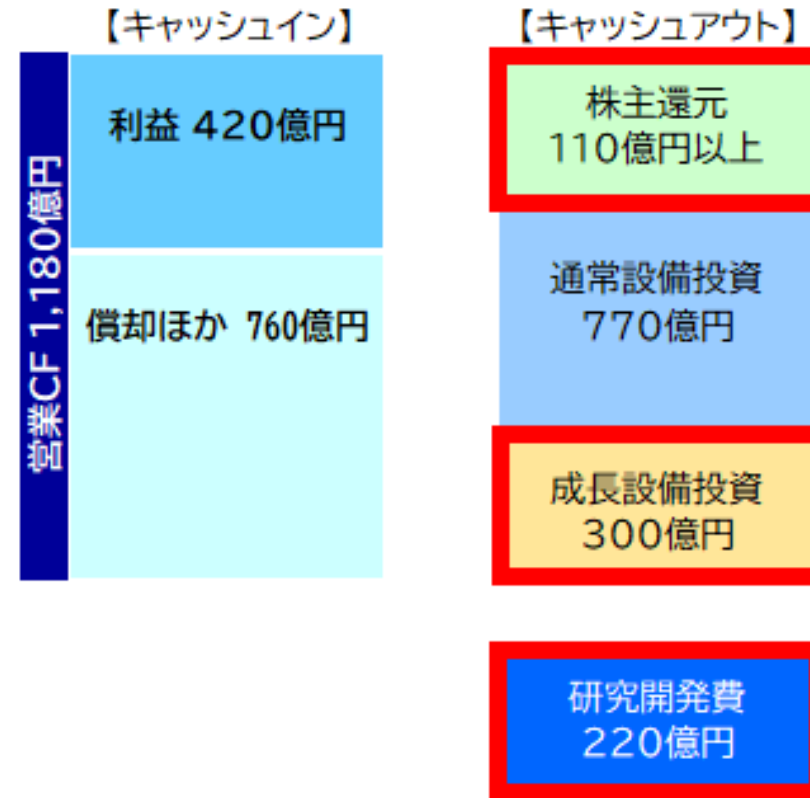
キャッシュ配分の変更

配分：「有利子負債返済」 ▶ 「将来成長投資」「株主還元」

前中期経営計画 2022-2024



新中期経営計画 2025-2027



将来成長投資、株主還元に注力

成長戦略: ボデー系部品事業①

目指す姿

モノづくり力、構造提案力で、自動車メーカーのボデー設計、解析業務を担える集団

大型・一体化への取り組み

従来



小規模組立部品

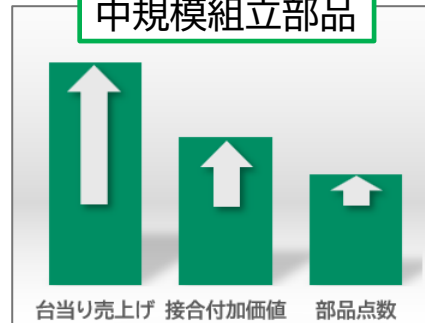


現在



ゾーン開発による
大型化

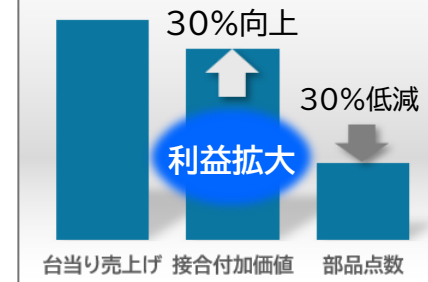
中規模組立部品



将来

更なる拡大
利益向上

一体化構造提案



bZ4X



2022

様々な車種に拡大
クラウンシリーズ



2023

ランドクルーザー250



2024

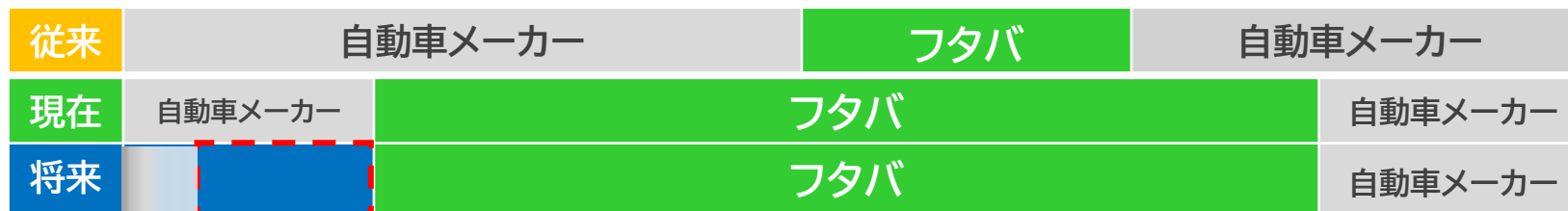
2025

■:大型化部品
■:その他の受注部品

成長戦略: ボデー系部品事業②

ロードマップ

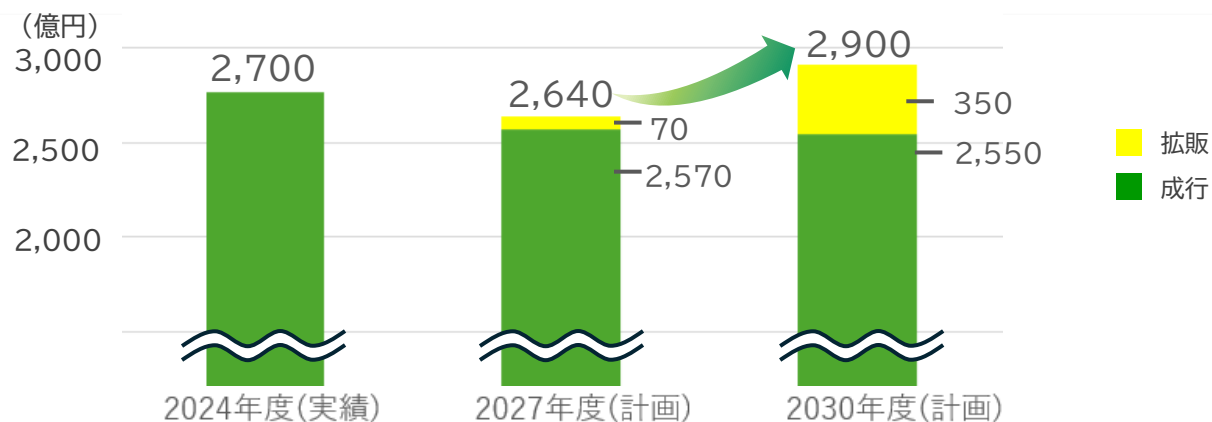
車両の企画構想から参入する事で自動車メーカーと共創し
高付加価値部品を提供



「良い部品づくり」から「良いクルマづくり」へ

売上計画

※支給品を除く



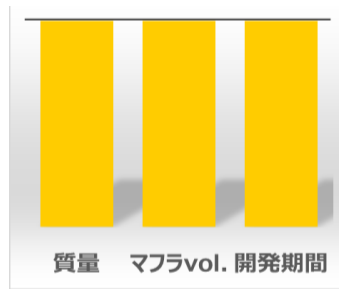
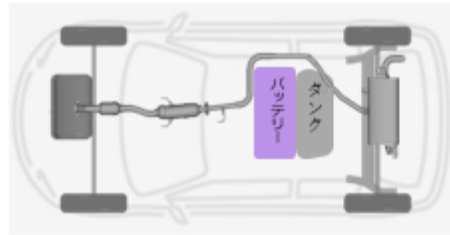
目指す姿

電動化ニーズに合わせた新たな排気システムの開発
(フルモジュラーマフラーの開発/生産効率の向上)

ロードマップ

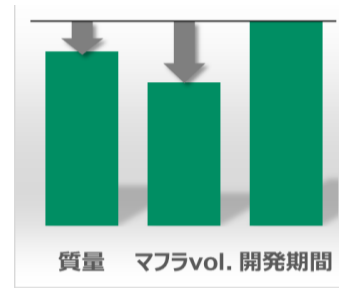
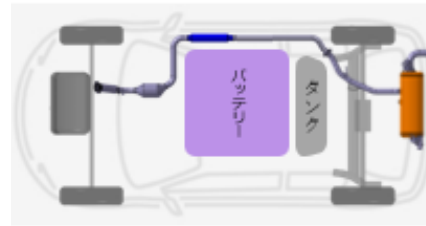
モジュラーデバイスからフルモジュラーマフラーへの進化

従来



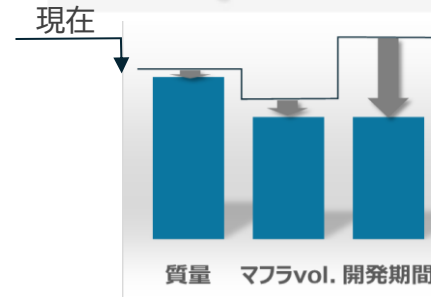
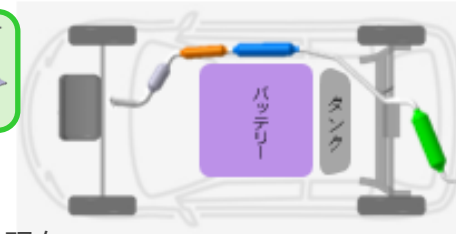
現在

モジュラーデバイス追加
PHEV、HEVへの拡販活動



将来

フルモジュラーマフラー
小型、標準化マフラーの組合せ



売上計画

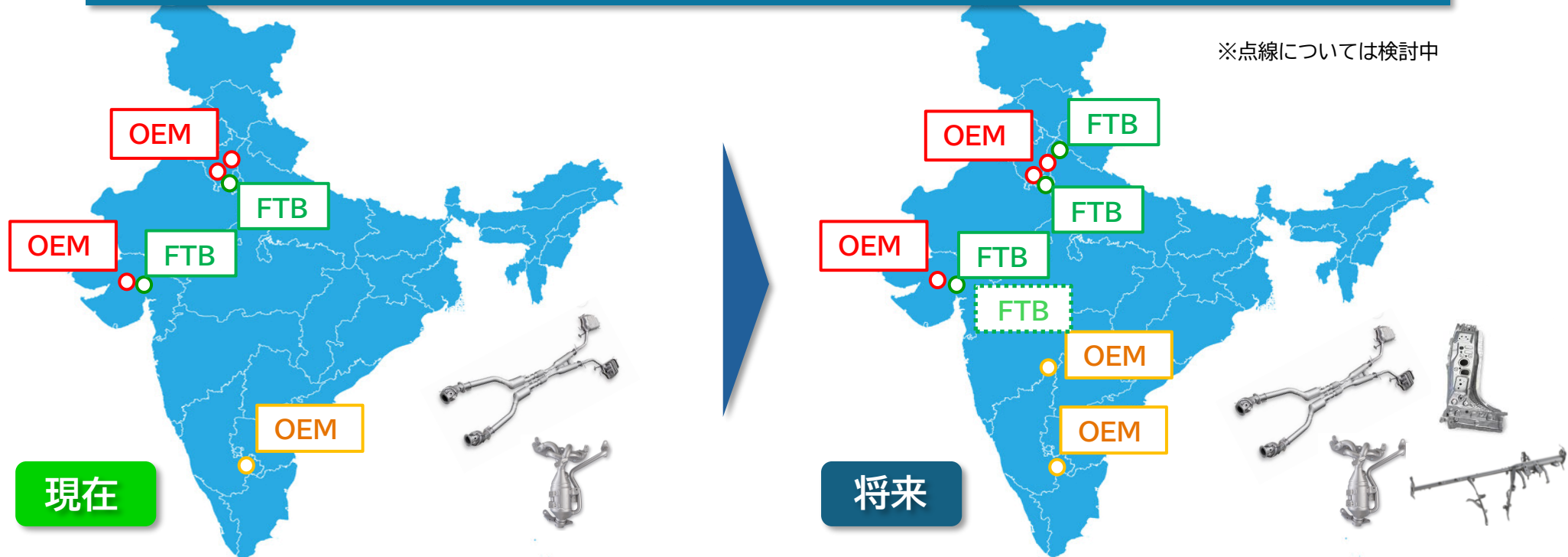
※支給品を除く



成長戦略:インド事業①

目指す姿

自動車メーカー(OEM)の成長に対応し事業拡大・成長する



フタバの強み

- 日本のものづくりをインドで実現(品質、生産性、改善)
- 鉄・ステンレス加工メーカーとしての幅広い大物製品(ボデー、インパネリインフォースメント、排気管、エキゾーストマニホールド)
- 優秀なローカルスタッフ

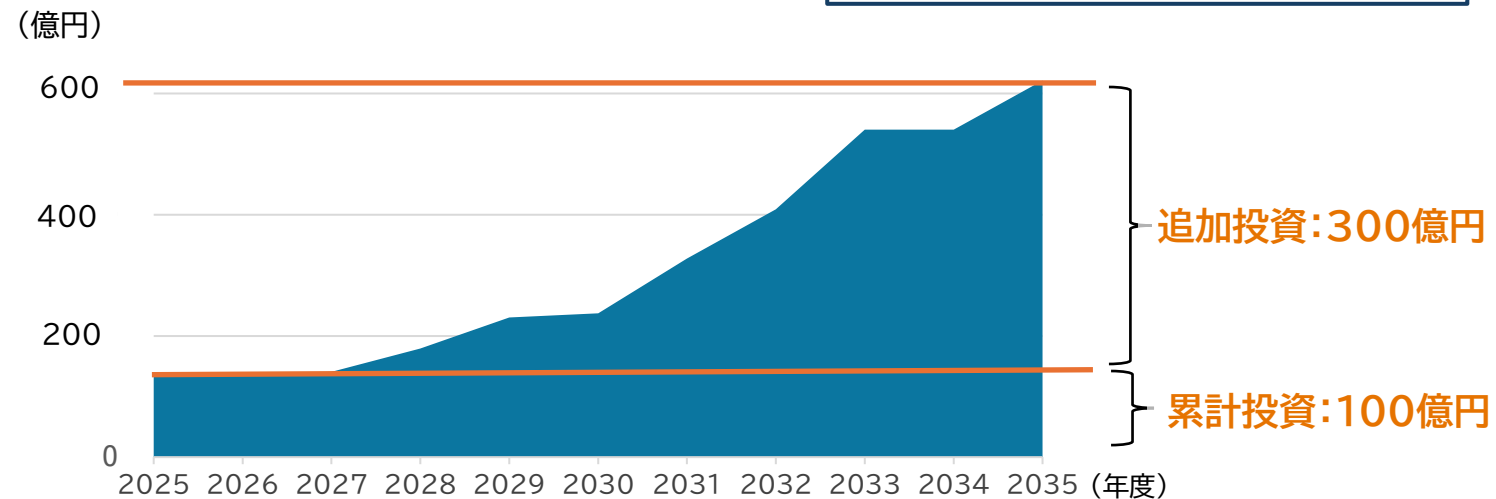
将来像に向けた取り組み

- 強みを生かした受注拡大
- 効率的な投資(ローカルサプライヤーとの協業、投資原単位削減)
- ローカル人材の採用から育成
- 設備事業の現地事業化

売上目標

※支給品を除く

最適で効率的な成長投資を実施



新規事業

【agleaf® CO2システム】

販売中

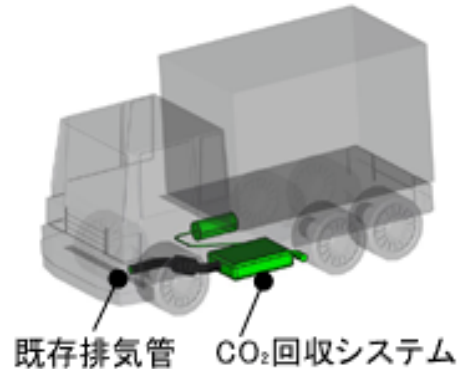


継続改良

- ・CO2回収効率向上
→ 高濃度・長時間施用
暖房機のCO2排出量削減
- ・暖房機燃料の多様化対応
→ バイオマス燃料など

【車載式CO2回収システム】

開発中



開発加速

- ・システム搭載スペースとCO2回収量の最適化
- ・CO2の利活用のパートナー探索

※東京都

「GX関連産業創出へ向けた早期社会実装化支援事業」に採択

新規事業

【レーザ除草ロボット】

開発中



開発加速

- ・ AI画像認識精度の向上
- ・ レーザ照射技術の確立

実際の農場で検証を実施
事業化加速

※農林水産省「スマート農業技術活用促進法」に基づく開発供給実施計画に認定

【超小型SOFC燃料電池】

開発中

バイオ燃料を用いた長時間稼働可能な
超小型SOFC燃料電池



売上計画

全新規事業での売上目標
:40億円/年(2030年度)

アジェンダ

1. 会社概要

2. 成長戦略

3. 稼ぐ力

4. サステナビリティ

5. 財務戦略

目指す姿

強い経営基盤(目標営業利益率・ROEの達成)

取組中

生産能力の柔軟性

- ・市場動向に合わせた人・設備能力の可変
〈例:人・工場〉
 - UK、中国(広州) :24年 214名削減
 - 中国(長沙、天津):23、24年 工場閉鎖
 - インド :27年 FMI第2工場新設
- 〈例:設備〉
 - 寄止め:2直化比率 24年38%→27年70%

現場改善

- ・歩留り改善:原価の60%を占める、
材料使用量の低減
- ・不良低減
- ・生産性向上:3%→4%
工場IT(AI・ソフトウェア)による、
データ分析~対策
- ・省人化・無人化

強化:デジタル化、グローバル化

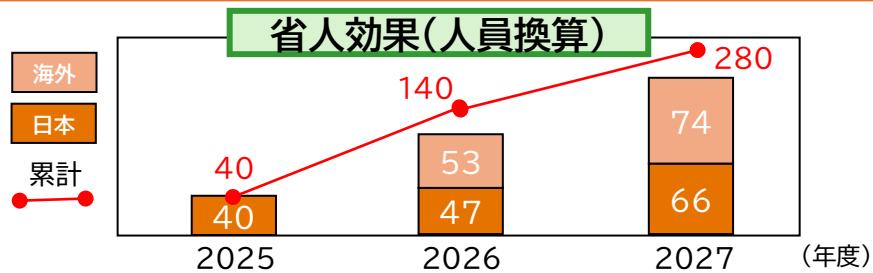
- 1)リードタイム短縮/投資削減
- 2)間接スリム化
 - ・業務の改廃、定型業務化(AI活用)
- 3)もっと作りやすい製品
 - ・工程短縮
 - ・不良低減
- 4)スマートファクトリー **TOPIC**
(省人化・無人化、クリーンな工場)

TOPIC スマートファクトリー



27年度目標

自動化技術を展開中



アジェンダ

1.会社概要

2.成長戦略

3.稼ぐ力

4.サステナビリティ

5.財務戦略

取り組み

重点施策を実施し、社員の働きがいの向上を図る
～仕事を通じた成長実感を、一人でも多くの社員に～

全員活躍

働きがいの向上

人材マネジメント改革

～多様な人材の採用・育成・配置～

- ✓ **事業戦略達成に必要な人材の採用強化**
・リファラル採用、スカウト採用、メディア活用
- ✓ **成長のためのキャリア支援**
・教育・評価ツールの整備と上司部下の対話充実
- ✓ **技能育成**
・個人のスキル評価と育成計画作成実行
・動画配信などものづくり現場に寄り添った教育
・製造マネジメント研修(現地現物・人間力)
- ✓ **最適配置への取り組み**
・個人の成長・能力拡大のための異動促進
・価値創造のためのリソースシフト

人事制度改革

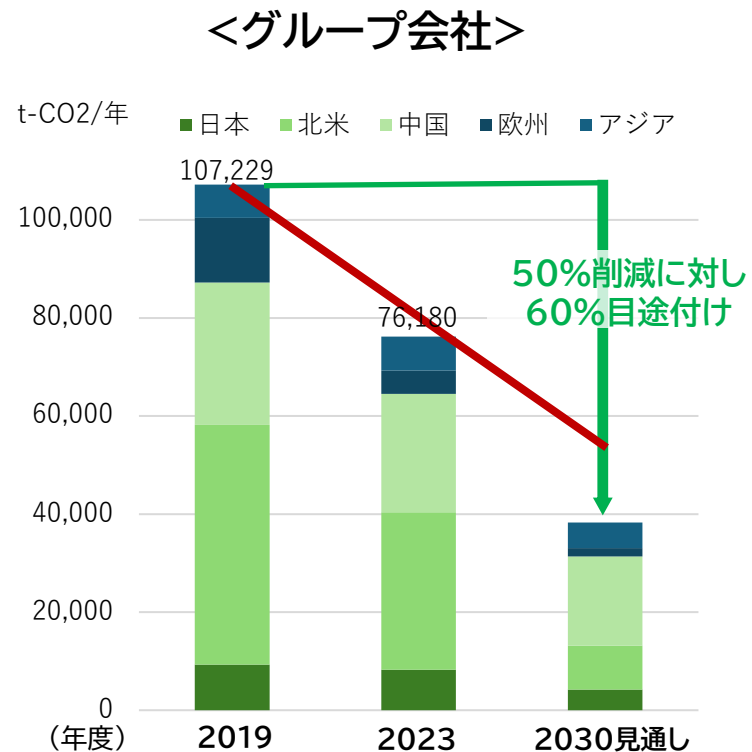
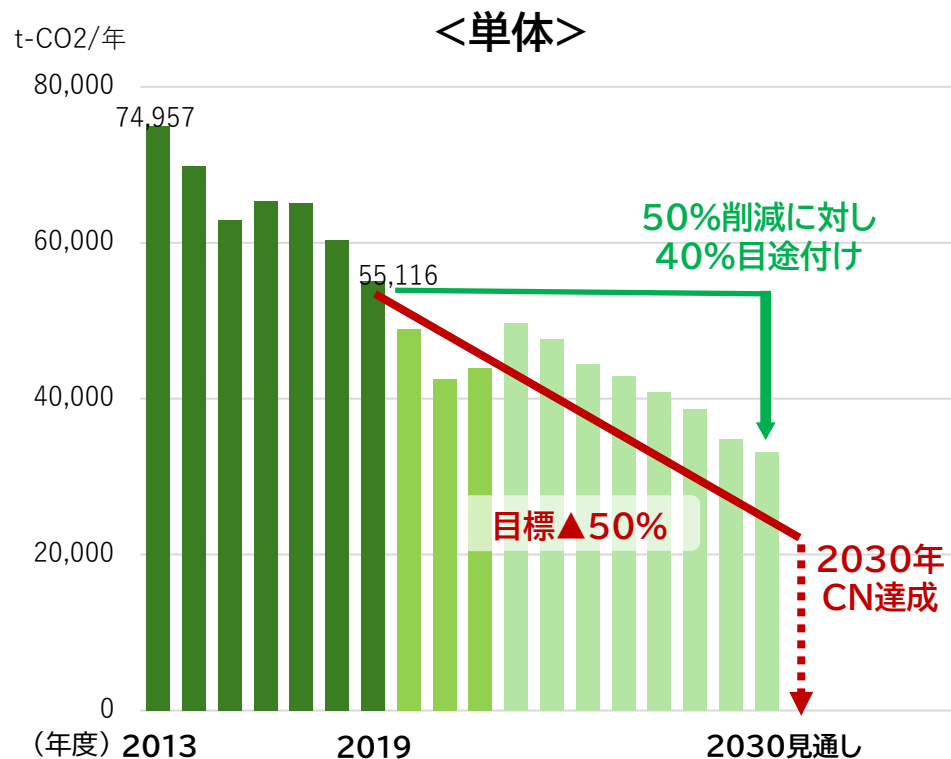
～制度・風土の改革～

- ✓ **ワークライフバランス実現のための制度改変**
・連続2直化拡大、男性育児休暇取得率向上施策
- ✓ **DEI、風土改革**
・社員同士のつながりを強化する社内交流会実施
・社員の自律性を促し行動変容に繋げる研修実施
・オフィス、工場のリノベーション継続
- ✓ **健康経営**
・安心安全な職場風土実現と社員の健康課題克服
ホワイト500取得

目指す姿

グローバル:2030年度(2019年度比)▲50%以上(▲4.6%/年)
 日本:2030年カーボンニュートラル達成にチャレンジ

工場のCO₂排出量ミニマム化



アジェンダ

1.会社概要

2.成長戦略

3.稼ぐ力

4.サステナビリティ

5.財務戦略

現状の財務数値

配当利回り

3.9%

(2026年2月3日時点)

時価総額

927億円

(2026年2月3日時点)

PER

7.7倍

(2026年2月3日時点)

PBR

0.7倍

(2026年2月3日時点)

自己資本比率

42.2%

(2025年12月31日時点)

格付(JCR)

A⁻

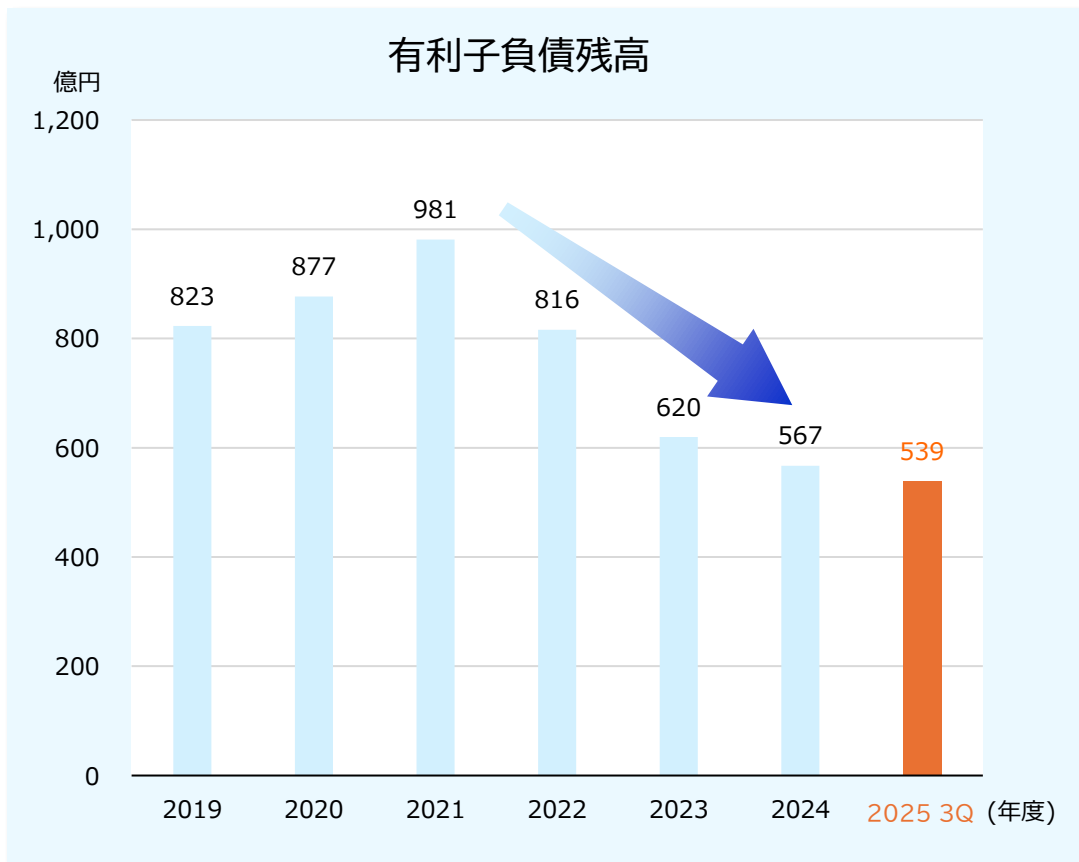
高い配当利回りで割安な銘柄

振り返り

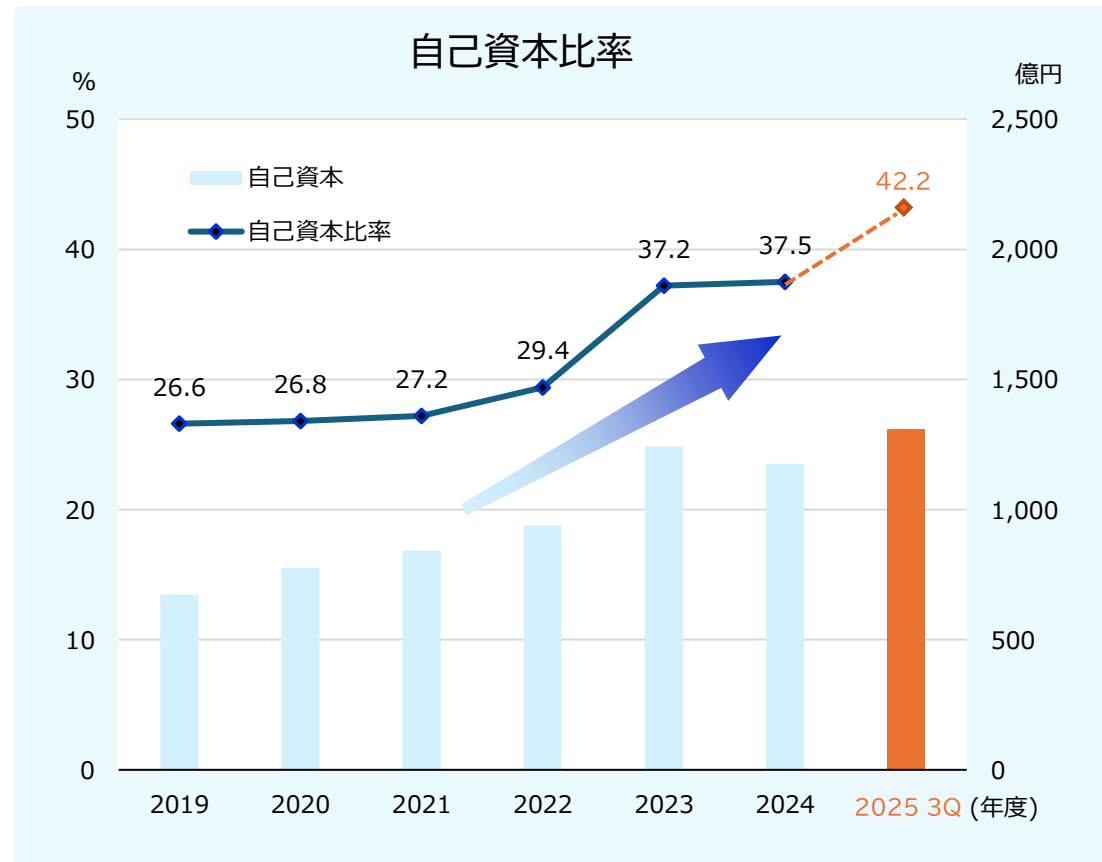
前中期経営計画テーマ

稼ぐ力を強化し、フリーキャッシュフローの増加をはかる

有利子負債の返済により財務体質は改善



有利子負債残高は2021年度末から400億円以上削減

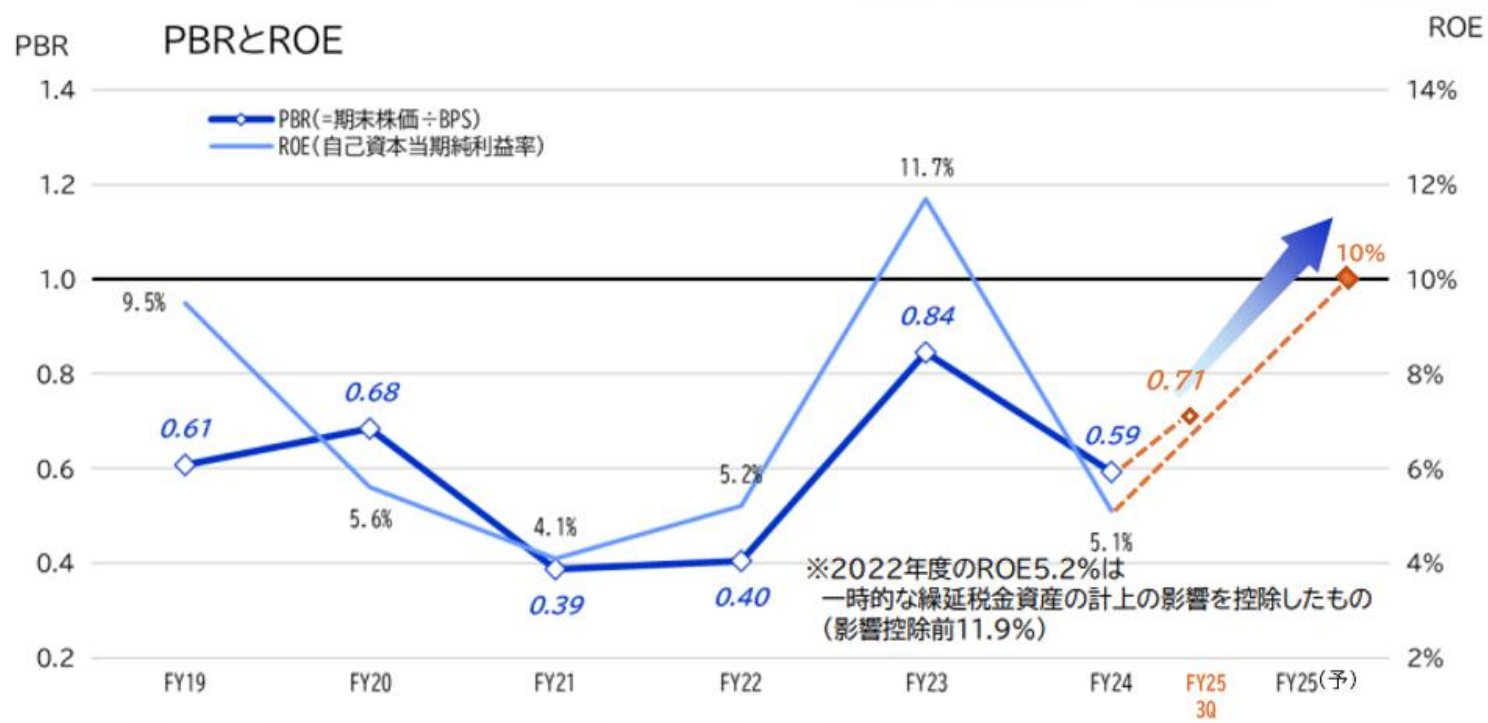


自己資本比率は2021年度末から10ポイント向上

新中期経営計画テーマ

PBR1倍の早期達成に向けて、収益力の向上をはかる

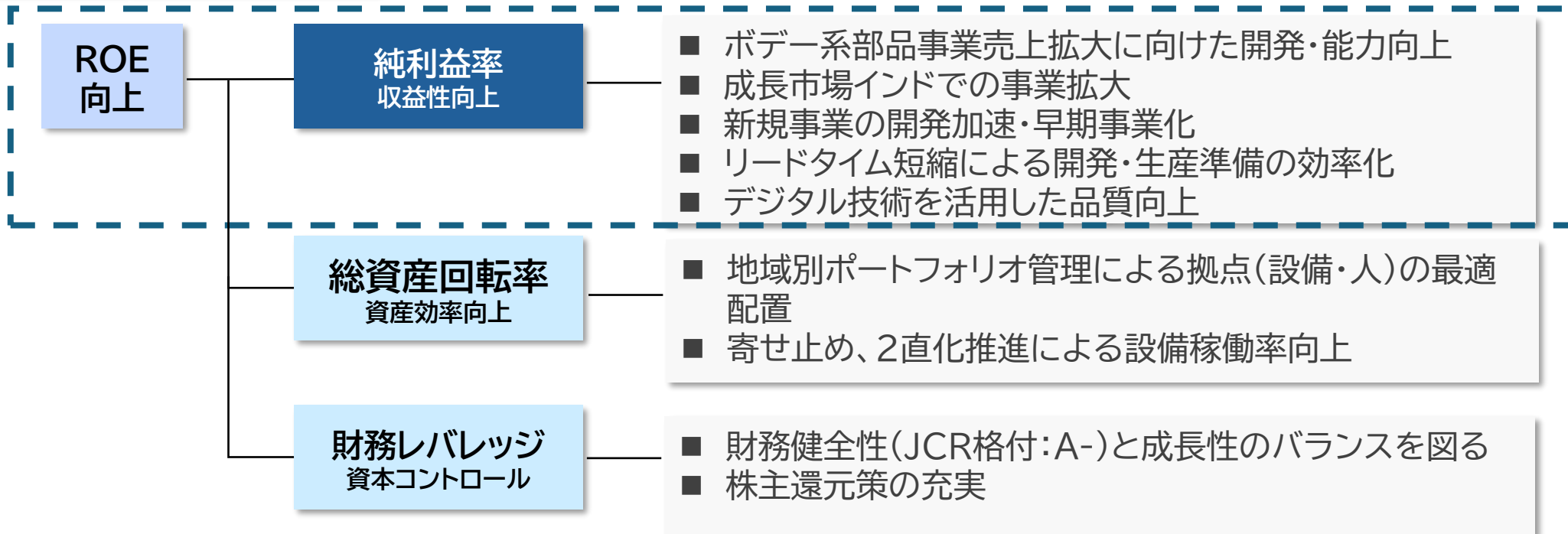
| 指標 | ROE | 営業利益率 |
|-----|-------|------------|
| 目標値 | 10%以上 | 5.0%(27年度) |



過去データより当社のPBRとROEには相関があり、収益の持続的成長をはかることでROE10%を達成し、牽いてはPBR1倍以上を実現

ROE向上にむけて

ROE向上にむけた取り組み



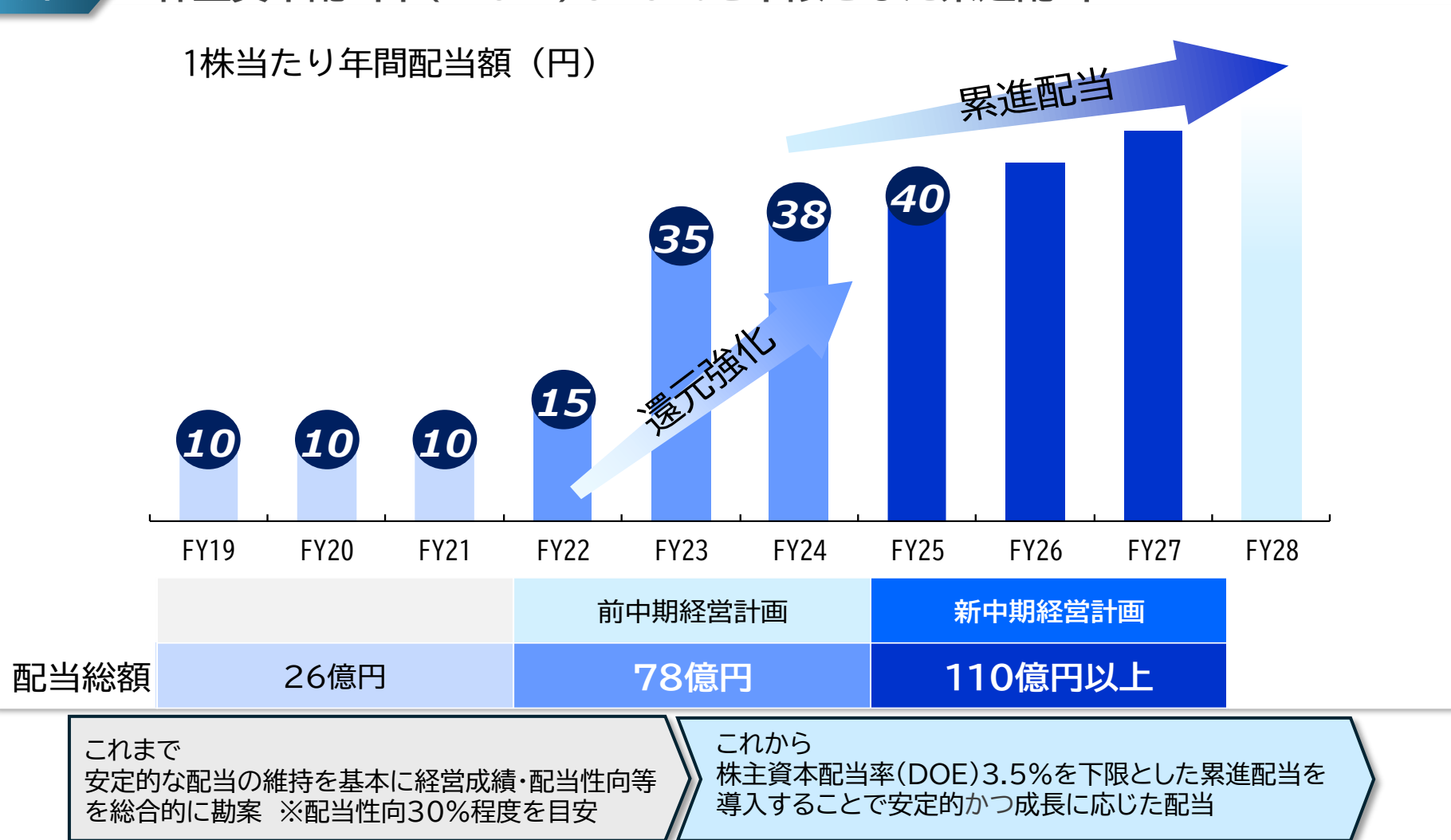
ROE 10%以上 = 純利益率 営業利益率5% × 総資産回転率 維持向上 × 財務レバレッジ 財務健全性管理

稼ぐ力の向上により、2027年度営業利益率5%達成を目指す

配当方針

株主資本配当率(DOE)3.5%を下限とした累進配当

1株当たり年間配当額 (円)



安定性を維持しつつ、業績に応じて増配できる還元策

- 証券コード:7241
- 配当基準日:中間9月末、期末3月末
- 単元:100株
- 最低購入価格:103,500円
(2026年2月3日時点)



直近5年の株価は上昇傾向であり、今後も企業価値向上に尽力

Point 1

フタバ産業は創業80年の自動車部品グローバルサプライヤー

Point 2

既存事業の収益向上と、新規事業(インド事業、農業事業等)の創出で持続的成長を目指す

Point 3

累進配当で株主の皆様へ安定的かつ継続的に利益を還元しつつ、ROE10%・営業利益率5%を目指すことにより、更なる企業価値向上を目指す

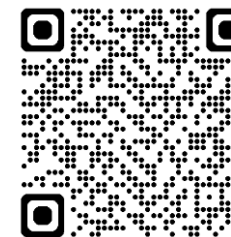
(ご参考)さらに詳しく知りたい方:当社HP・FUTABA統合レポート2025



【当社ホームページ】

<https://www.futabasangyo.com/>

上部の「株主・投資家情報」より、IR情報がご覧いただけます。



【FUTABA統合レポート2025】

https://www.futabasangyo.com/csr/env_report/

IR情報では統合レポートを掲載しております。
フタバ産業についてより詳しく記載しておりますので
ぜひご覧いただければ幸いです。



FUTABA

フタバ産業株式会社

<https://www.futabasangyo.com/>

【注意事項】

本資料に記載される当社（連結子会社を含む）の見通し等は、当社が現在入手している情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従って、これらの業績予想等のみで全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い申し上げます。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知ください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社、連結子会社および持分法適用会社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

本資料に掲載のあらゆる情報はフタバ産業株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに、複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、一部の数値を億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。